

# 神戸の赤旗読者からOHガッツへ50万

東日本大震災によって甚大な被害を受けた雄勝町の漁師たちが立ち上げた会社「OHガッツ」が8月11日の赤旗日刊紙で報道され、その記事を読んだ読者の方から50万円の出資金が寄せられました。(23日、赤旗3面に掲載)



50万円を受け渡す三浦市議(左)、OHガッツ伊藤浩光代表(右)

出資された神戸市に住む澤田清方さん(71)は「確実に届けてくれるのは共産党。お金を託します」という手紙を添えて、東部地区委員会へお金を送ってくれました。

8月22日に赤旗記者と一緒に三浦市議が雄勝町を訪れ、OHガッツ代表の伊藤浩光さんに手渡しました。

伊藤さんは「面識もないのに本当にありがたい」と喜びます。また、ボランティアに関して「貝の養殖の準備で未経験の人でもできる作業がある。自分たちだけでは作業が多すぎて身動きが取れなくなる」と語ります。

三浦市議は「雄勝をはじめとして、まだまだ復興が進んでいない地域がある。今後、漁業ボランティアなども派遣できれば」と語りました。

なお、23日には赤旗日刊紙を見た京都や広島の方から申し込みの電話が党事務所に寄せられており、赤旗報道を通して反響が広がっています。

## 青年ボランティアセンターで講演

8月20日に全国青年ボランティアの50人が、南三陸町の大瀧りう子町議、登米市の工藤淳子市議、登米市に住む中澤武さんを招き、被災地の実態を講演してもらいました。

大瀧町議は、地震と津波の直後から、食事の確保、トイレの設置、住民の名簿づくりなど、「命と暮らしを守るのが共産党」との思いで、地域の方々とともに必死に住民を支えてきたことをふりかえりました。さらに、いまの被災者の現状や求められることについても紹介。「町議会の

年間予算は70億だが、復興には1400億円が必要。国は4分の1(350億)を地元自治体の責任にしようとしているけど、そんなお金はない」など、復興のあり方や政治の問題点について語りました。

工藤市議、中澤さんからは「中学校でまらごと移転しないといけないところがあるが、どこに行くのか住民で議論になっていく」「地震に加えて原発の問題も深刻」などのお話を聞き、地元の状態が見えてきました。



## 気仙沼で子ども祭り

8月19日に気仙沼市委員会が反松公園仮設住宅で聞き取りアンケートを行っている、住民の方から「21日の子ども祭りを手伝ってほしい」という要望が寄せられ、対策本部で具体化し、当日は設営から撤去まで9人が参加しました。

祭りの実行委員長から、準備時にも開会時にも参加者の前で各団体とともに紹介されました。祭りの参加者からは物資お届け活動へのお礼も多く寄せられました。

NEWS

2011/8/24 70号

日本共産党 震災・救援対策センター

石巻市南中里4-7-17 TEL 22-6335 FAX 22-6892